

# 宮城県松島高等学校

## I 学校所在地の災害特性及び地域連携に係る現状等

### 【学校所在地の災害特性】

校舎の立地は高城川流域に位置し、松島町の作成したハザードマップでは、職員駐車場の入口近くまでの浸水が予想されている。一方で、隣接する第一グラウンドや、駐車場の入口付近を除く敷地内は、高低差の関係で浸水域からはずれており、敷地内の一番奥側にある体育館は、地域住民の避難所に指定されている。観光科の学習活動の一貫で観光地のボランティア・ガイドを実施しているが、松島観光の中心地であり、海に直接面しているため、地震の発生とそれに伴う津波に関しては特に警戒を必要としているエリアである。

### 【地域連携に係る現状】

観光科は、松島町観光協会の協力を得て、年に2回、観光地でガイドをしている最中を想定した避難訓練を実施している。校舎周辺の高城区の住民と連携した避難訓練は、平成24～26年に3回だけ実施されているのみである。

## II 取組状況

### 1 地域や関係機関等と連携した学校防災マニュアルの見直し及び避難訓練の実施

#### 【松島町・高城区・松島高校の合同防災会議】

本校体育館が避難所に指定されており、松島町を通じて高城区の行政委員4名に体育館の鍵を渡している状況だった。しかし、高城区内での行政委員の交代や、高城区・松島町・松島高校の3者で確認が定期的に行われていなかった。鍵の所在と引き継ぎ、所有者の確認等を目的に、学校防災アドバイザーの協力を得て、3者会議の場を設定させてもらった。

#### 【高城区・松島高校・松島町の合同避難訓練】 R5.9.17(日) 9:00～12:00 実施

上記の会議の成果として、合同避難訓練を計画・実施した。高城区長と松島高校防災主任が中心になって、以下の3回の会議を経て計画した。

第一回 R5.7.15 松島高校会議室(松島町防災担当、高城区長、松高防災主任)

第二回 R5.8.21 高城コミュニティセンター(高城区長、婦人防火クラブ代表、松高防災主任)

第三回 R5.9.11 松島高校体育館(高城区長、松島町防災担当、松高防災主任)

打合せを通じて、松島町で実際に起こった大雨・台風の被害を想定し、住民が実際に体育館に避難してくるという内容に決めた。

本番は約50名の参加で、校舎に高城区の方が集まった。内容は、①校門の施錠解除、②校舎内の敷地を体育館まで移動、③体育館の設備確認、④避難所の受付設営までの流れを確認、⑤松島町から配布される非常食の配布、とした。大きな課題は、南京錠の解錠や正門を押し開けることが、高城区の方々にはとても大変だということ、また、夕刻以降の避難では、学校の敷地内の足元やルートが分かりにくく、体育館までの移動が困難であること、の2点だった。良かった点は、実際に体育館に入ってもらい、どこに何があるのか、スペースがどれくらいかを高城区の方に確認してもらえたことだった。実施後のアンケートは、高城区会の16名に回答いただいた。

質問 災害発生時における地域と学校の避難対応について、共有をはかることができたか

共有につながった：4名 概ね共有につながった：4名 あまり共有につながらなかった：4名  
参加出来なかったので回答できない：4名



## 2 地域と連携した災害特性を共有するワークショップ等の実施

【講話「松島町の災害特性について」】 講師：松島町防災担当

○教職員向け R5.11.21（火）14:00～ 本校会議室

○生徒向け R5.12.5（木）3校時（11:00～11:50）

近年の松島町の災害状況や東日本大震災時の被害状況、松島町の地形や浸水区域について、詳細なデータを基にお話しいただいた。また、ハザードマップ上で、最寄り駅から学校までの通学ルート上に、どのような災害の危険性があるのか、詳しく説明いただいた。

生徒のアンケート結果を見ると、以下の通りとなった

質問1 講話を聞く前まで、松島町にどのような災害特性があるか知っていましたか

①知っていた：12.9% ②だいたい知っていた：28.6% ③あまり知らなかった：**58.4%**

質問2 講話を聞いたあと、地域にどのような災害特性があるか理解できましたか

①理解できた：**46.3%** ②おおむね理解できた：**49.4%** ③あまる理解できなかった：4.3%

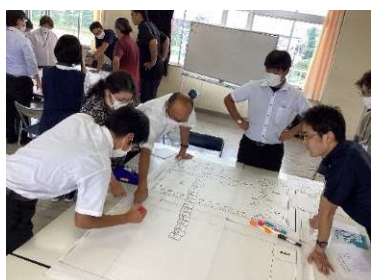


## 3 教職員の災害対応力を養成する校内研修等の実施

【HUGを体験するワークショップ】 R5.9.20 14:00～14:30 本校音楽室

参加者：本校職員15名、NPO『ゆりあげかもめ』3名、学校防災アドバイザー

初めてHUGを経験する教員が多いので、ゲームのスピードを4分の1程度にして行った。教員の感想には、「本番はもっと早い決断を下す必要があると考えると難しい」「最初の頃によかれと思って判断したことが、後からくる課題の解決を困難にする。本当に難しい」という意見が多かった。



【教員の防災力を高める研修】 R6. 2. 7～2. 8 阪神・東京方面

令和6年2月7日：東京臨海広域防災公園

2月8日：北淡震災記念公園、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター

大規模災害時の対応と、被災地の伝承について研鑽を積むため、防災主任が阪神・東京方面に視察を行った。いずれの施設も南海トラフ地震への対応に向けての展示に力を入れていて参考になった。



#### 4 被災地訪問等を取り入れた児童生徒の防災意識を高める防災教育の実施

【被災地訪問学習】 R5. 12. 8（金）9:00～12:45 1学年・3学年普通科対象

2学年の普通科修学旅行・観光科研修旅行に合わせて、1、3学年の被災地訪問学習を実施した。観光科は毎年気仙沼方面の被災地訪問を行っているため、本事業では普通科のみを対象とした。

目的：被災地を訪れ実際にあったことを体感し、復興に向けての地域の歩みについて学ぶ

内容：震災遺構、復興の象徴となる施設の訪問

○1 学年 石巻方面 石巻南浜津波復興祈念公園・「みやぎ東日本大震災津波伝承館」  
シーバルピア女川

当時の記録を確認できる最新の施設と、津波被害後の復興に向けて作られた施設を訪問、見学してもらった。事前学習で、東日本大震災発生時に石巻方面で被災体験のある本校教員の話聞いて、施設の見べきポイントを確認した上で訪問した。

○3 学年 閉上方面 震災遺構仙台市荒浜小学校、名取市震災メモリアル公園、津波復興祈念資料館閉上の記憶、JAフルーツパークあらはま、かわまちてらす閉上  
震災時の大変だった記憶があまり残っていない生徒が多く、とにかく震災があったことを伝える本物の資料に触れてもらいたいという思いで訪問場所を選定した。普通科3クラス147名が、同時に訪問できる施設はないので、訪問場所を多くし、時間をずらして1クラスずつ訪問できるようにした。津波復興祈念資料館閉上の記憶では、語り部から実際に当時の話を伺い、震災遺構仙台荒浜小学校では、実際の被害の様子や、避難した当時の子どもたちが残したものに触れて、震災を体感する機会をもつことができた。



【防災学習】 R6. 2. 26（月）本校1・2学年生徒対象 各教室 \*防災主任がリモートで授業  
3校時（11:00～11:50）「マイタイムラインを作ろう」  
4校時（12:00～12:50）「避難所運営について考えてみよう」



『わが家の防災タイムライン』（東京法令出版）を使用し、マイタイムラインの作成に取り組んだ。iPad で国土交通省のサイトから、自宅付近のハザードマップを調べ、風水害時の自分の行動について考えさせた。完成させた生徒は少ないが、いろいろなケースについて考えて級友と話し合う姿が見られた。避難所運営は、HUG のキットを簡略化して使い、次々と避難所を訪れる 8 世帯の人たちについて、どのように避難所に受け入れるかを考えさせた。実施後のアンケートでは、避難所に様々な人たちが来ることが理解できたとコメントする生徒が多かった。自分たちが主体となって運営にかかわることもあったと、自覚をもってもらうことができたと考える。

### III 取組を通じた成果と課題

#### 【成果】

- 松島町や学校、高城区内で、担当が変わり、曖昧なままだった本校の正門・体育館の鍵の所在を毎年度 4 月に確認するという基本的な合意に達することができた。
- いままで年 2 回の避難訓練しか実施してこなかったところ、被災地訪問や HUG の研修、松島町の災害特性の学習などに取り組むことができた。生徒、教職員に、これまでより高度な内容の防災学習の機会を提供できた。

#### 【課題】

- 本年度、県の事業指定を受けたことを理由に、松島町と高城区との連携を深めることはできた。それぞれの担当が変わっても継続して関係性を維持していく仕組みが必要だと感じた。
- 避難訓練に、避難所運営の場面を設定し、生徒の役割分担なども検討して自主的な開設・運営までできるようになることを目標としたい。在学中の 3 年間をかけて意識を高め、ノウハウを高めていけるような防災学習計画を作成していく必要を感じる。
- さらに教職員の防災意識を高めるために、避難訓練の内容を工夫したり、研修の場を設けたりする必要があるが、他の行事や会議などとの調整が難しい。生徒が防災学習する場面は、教員も一緒になって学ぶという姿勢でとらえて、生徒、教員の学びが深まるような内容で防災学習を計画していきたい。

### IV 次年度の取組予定等

- ・HUG 体験することで避難所運営を学び、実際に避難訓練で実践すること。その際、高城区の方と合同で行うことを検討する。
- ・定期的に防災学習の機会を持つために、毎月朝の S H R の時間で防災学習の時間を設定する。通常、避難訓練の事前・事後もしくは雨天中止の際に使用していた副教材『未来への絆』を、この時間でも活用していきたい。
- ・優れた防災教材を選定し、活用して、生徒がこれからの人生でも役に立つような知識やノウハウを身につけられるように防災学習の内容を工夫したい。特に南海トラフ地震を意識していく。
- ・毎年、祝日の文化の日に行われる松島町総合防災訓練や高城区との合同避難訓練に、有志の生徒が参加できるようにしたい。